

Robotics Report

新たな常識のはじまり

過去最大の来場者数となった 2017年の「国際ロボット展」

nikko am
fund academy



2017年11月29日から12月2日にかけて開催された「2017国際ロボット展(以下、ロボット展)」(於東京ビッグサイト)は、612社・団体が出展、約13万人が来場する大きな催しとなりました。

今回はロボット展で見てきたことを中心にご紹介します。



当社も出展しました

■ ロボット展でのキーワードは、「協働」「AI(人工知能)」「サービス」

多くのブースでは、従来の産業用ロボットと異なり、人間と協働して作業ができる安全かつ柔軟なタイプの「協働ロボット」が展示され、来場者の関心を集めていました。



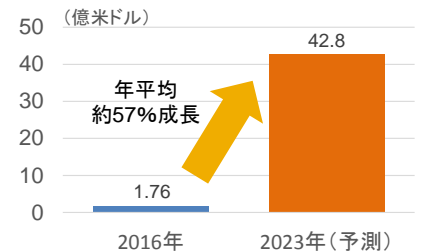
米調査会社MarketsandMarketsは、この「協働ロボット」の世界市場規模が年平均約57%(17~23年)で成長し、23年に約42.8億米ドル(4,836億円*)にまで拡大するとしています。さらに、米調査会社Grand View Researchは25年に約67.7億米ドル(約7,650億円*)と予測しています。それゆえ、ロボット展での出展社数や来場者数の増加は、関連市場拡大への期待を象徴するものであったといえそうです。

*1米ドル=113円

このほか、セキュリティ用ロボットや倉庫用ロボット、案内用ロボットなど、多くの「サービスロボット」も展示されていました。これらのロボット(産業用も含む)をより自律的かつ効率的に動かす技術として、AI関連のプロダクトが多く展示されていたのも特徴でした。

また、中国・台湾・韓国など海外企業の出展も多く、話を聞いた海外企業関係者はいずれも、「この出展を日本市場進出の足掛かりにしたい」と期待を寄せていました。

【協働ロボットの市場規模予測】



出所: MarketsandMarkets「Collaborative Robots Market worth 4.28 Billion USD by 2023」を基に日興アセットマネジメントが作成

■ 最大のロボット市場、中国での展示会も活況

中国・広東省深セン市でも、11月中旬に「第19回中国国際ハイテク成果交易会(以下、交易会)」が開催されました。中国はロボット市場の成長が最も期待されている国の一つですが、その勢いや期待を象徴するように、交易会も活況を呈したようです。国内外から約3,000社が出展し、紹介されたプロジェクト数は約1万件になったそうです。現地メディアは、ロボットやAI関連の展示が多かったと報じており、掃除や接客、セキュリティなど生活をサポートする「サービスロボット」が目立ったのも、今年の特徴のようです。

18年3月には、同じく広東省で「広州国際オートメーションテクノロジー専門見本市(SIAF GUANGZHOU 2018)」の開催が予定されており、出店の引き合いは強いようです。なお、同省の資料によると、16年に同地域で約6万のロボット関連の製造工場が新設され、同地域が中国全体のロボット生産量の45.2%を占めるとしています。ロボット市場として有望な中国の中でも、高いシェアを占める広東省の動きに、今後も注目する必要があるのかもしれませんが。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。